

THE SHOIN TIMES

“JAPANESE RED CROSS SOCIETY” - Tuesday, September 3, 2019

日本赤十字メンバー・リーダーシップ総合型トレーニング・センターに参加

8月9日～12日、外磯ほのかさん(2春)、野上愛未さん(2夏)、北雛乃さん(2花)の3名が大阪府青少年赤十字メンバー・リーダーシップ総合型トレーニング・センター(以下「トレセン」)に参加しました。トレセンでは、「気づき・考え・実行する」をモットーに、赤十字や青少年赤十字についての学習、応急手当の仕方、ボランティア活動、さらに、集団生活や野外活動を通してリーダーシップの取り方について学びます。今回は、参加した3名にそれぞれコメントを頂きました。



2年花組 北雛乃さん

今回初めてトレーニングセンターに行って、チームワークの大切さ、リーダーとはどういう人なのか、救急法など本当にたくさんのことを学ぶことができました。救急法では三角巾の使い方や止血方法など人を助ける時や自分がケガをしてしまったときに役に立つことを学ぶことができました。勉強だけでなく、レクリエーションやキャンプファイヤーなど小学生とも関われる楽しいイベントもありました。また行ける機会があれば行きたいと思います。

2年春組 外磯ほのかさん

今回のトレセンでは宿泊ということもあり初めは不安でしたが、最初の開講式で先生が「この3日間は帰るとき必ず来て良かった」と思えるようになって仰っていたので、その言葉を信じて積極的に取り組みました。トレセンでのグループワーク、フィールドワーク、夜のつどいなどでリーダーシップを取る大切さ、そしてリーダーとはどのようなものなのかを学びました。特にフィールド

ワークでは色々なミッションをやっていく中で協力して1つの事をする大切さ、自分の意見も言い、相手の意見も聞き足りないところを補い合う大切さを学びました。この3日間、学校はもちろん年齢も違うみんなとこんなにも仲良くなる事が出来ると思っていませんでした。本当に来て良かったと思えました。ここで学んだたくさんの事を、これからの生活で生かされるように頑張ります。



2年夏組 野上愛未さん

私はボランティアをするにあたって知識や考え方を学びたいと思い参加しました。救急法の講義では、命の大切さと正確な判断の必要さを学びましたが、練習で出来ても必要な時に使えなければ全く意味がないという事実が実践を通して胸に刺さりました。そして、限られた時間の中で自分たちが「気づき、考え、行動する」ことの難しさを身に染みて感じたとき、今まで私が

「リーダーシップ」だと思っていたものと全く違うことに気がきました。「リーダーシップ」は1人1人違った在り方で存在しており、違った「リーダーシップ」を持つ人が集まったとき、大きな力になると思いました。私は今回のトレセンで学んだことをCSAおよび今後のボランティア活動に活かしていきたいです。ボランティア精神があふれる学校にしていきたいです。



学校法人 樟蔭学園

樟蔭中学校・高等学校